

平成29年度・応用生物科学部・研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	入学者選抜の改善に繋がった取組 ○ 特別選抜入試のミスを防止するために作成した実施マニュアルを見直し、改訂した。適切な学生の受け入れ ○ 学部の入学者数は入学定員の1.05倍であり適正な数である。 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の明示および受入方法との関係 ○ 大学HP及び入学者選抜要項において求める学生像を公表した。本学部の第三者教育評価（平成28年度：応用生命科学課程・専攻及び生産環境科学課程・専攻、平成29年度：共同獣医学科）において、アドミッション・ポリシーと受入方法の関係を検証し、同ポリシーに沿って入試を実施していることを確認した。	・特別選抜入試マニュアル（改訂版）4-1-1 ・平成30年度入学者選抜概況 4-1-2 ・入学者選抜要項 4-2-1 ・第三者教育評価抜粋 4-2-2	応用生物科学部・研究科の取り組みを示すポシチ絵（公表用1枚）
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	単位の実質化を図るための取組 ○ 平成27年度より、単位の実質化に不可欠な学習態度を新入生に修得させるため、1年前学期の初年次セミナー（必修）において、大学での受講の姿勢及び自学自習の重要性を教授した後、基盤的能力の涵養のための4つの課題（作文2題、科学レポート2題）を課している。これら学習成果物をTA・SAが個別にチェック・指導し、個人の能力に応じた教育指導により、確実な授業時間外の学習を促した。 教育課程を展開するにふさわしい授業形態・学習指導法 ○ 大学院自然科学技術研究科において、自律的な高度専門職業人の養成を目指した教育を深化させるため、共通教育としてデザイン思考教育を実施した。 授業の方法及び内容の明示状況 ○ WEBシラバスにより、学生に対して授業の方法及び内容を開示している。	・岐阜大学教育推進・学生支援機構年報2016年 5-2-1 ・初年次セミナーマニュアルH29版 5-2-2 ・活性化経費（教育）報告会資料（H30.2.22）5-2-3 ・応用生物科学部シンポジウム資料（H30.2.23） 5-5-1 ・WEBシラバス作成状況 5-5-2	
基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等か	学習成果の向上に繋がった取組 ○ 学生による授業評価（5段階評価）が平均で前学期4.00、後学期4.10と高い評価である4以上を保持し、シラバス記載の到達度に関する評価でも「到達した」との回答が90%以上の科目があるなか、多くの科目で60%を超えていた。 ○ 卒業及び修了時の意識調査より、満足度がそれぞれ90.1%及び81.3%と高い値であった。このことから、本学部・研究科で学んだことにより、一定の学習成果を挙げている。	・授業評価結果（前・後学期）6-1-1 ・卒業（修了）時アンケート調査結果 6-1-2	

ら判断して、学習成果が上がっていること。	ると学生自身が自己評価していると考えられた。 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況（過去5年間の推移等） ○ 過去5年間の修業年限（標準修業年限）内の卒業（修了）率は95.9%（98.2%）、「修業年限（標準修業年限）×1.5」年内卒業（修了）率は99.9%（99.5%）であり、適正な水準である。過去5年間の獣医師国家資格の合格率は、ほとんどの年度で90%以上を維持するなど全国平均を上回っている。 卒業生（修了生）、就職先等の意見聴取により、学習成果が得られていることの確認状況 ○ 企業展に出展した企業に就職した卒業生に対するアンケート調査を実施した結果、半数を超える企業が本学部の卒業生が備える基礎知識、3割が専門知識を評価していることが明らかとなり、いずれの数値も昨年度を上回った。	・修業年限内卒業率 6-2-1 ・獣医師国家資格取得状況 6-2-2 ・企業展アンケート結果 6-2-3	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	教育の質の改善に繋がる取組 ○ 今年度のシラバスに記載した内容及び成績評価について教員に検証を要請し、96人中1人（1%）の教員が担当科目のシラバスに課題を見出し、次年度のシラバスを改善すると回答した。リフレクションペーパーの作成により各教員に教育の工夫や改善を促した結果、86%の科目で今年度改善した内容が、さらに次年度に向けての改善計画が54%で提出された。 ○ 前年度実施した応用生命科学課程、生産環境科学課程の教育評価について教育改善室で検証し、改善を図るため将来構想検討ワーキンググループが設置された。12月に検討結果が答申され、この答申に基づいた改革を両課程に要請した。 ○ 第三者教育評価委員会において、前年度の2課程に続き共同獣医学科の3教育ポリシーを含む教育状況について、評価ワークシートを用いて評価した。教育状況とともに、良好な点と改善が必要と考える点がまとめられ、教育改善室長（学部長）に答申された。次年度、この評価結果をもとに改善を図る計画である。 関係者（学生、卒業生（修了生）、卒業生（修了生）の主な雇用者等）から教育の内部質保証についての意見を聴取する仕組みの構築状況 ○ 授業評価アンケート、卒業（修了）時アンケート、企業展におけるアンケート等により、教育効果を測る仕組みを構築済みである。 ○ 在学生の保護者からなる後援会理事会を5月と10月に開催し、各理事から大学に対する意見を聴取した。10月には、全保護者を対象とした後援会交流会を開催し、保護者	・シラバスの点検結果資料 8-1-1 ・リフレクションペーパー結果一覧 8-1-2 ・将来構想WG座長依頼 8-1-3 ・同答申書 8-1-4 ・教育評価答申書（共同獣医学科） 8-1-5 ・各種アンケート調査（授業評価・前後期、卒業（修了）時、企業展、公務員就職フェア） ・後援会理事会次第 8-2-1	

	の立場から大学に意見を述べる機会を設けた。 ○ 本学内で同窓会代表者委員会を6月に開催し、大学の状況を説明し、代表者からの意見を聴取した。 ○ 学生自治会との懇談会を2回開催し、学生からの意見を聴取した。 自己点検・評価の結果を踏まえ、指摘事項への対応を検討、立案、提案する組織の設置状況 ○ 本学部に常設された教育改善室において、上記の仕組みで得られた結果を検証し、中長期的な教育方針を立案するなど改善策を図っている。今年度は、改善策を検討するため将来構想検討WGが設置された。 自己点検・評価の結果を踏まえ、指摘事項に対する対応計画が策定され、その取組が成果をあげていること、または、取組が進捗されていることの確認状況 ○ 第三者教育評価委員会が行った教育内容の検証を基に将来構想検討WGで検討された内容を参考に、当該課程において教育体系の見直しを開始した。	・後援会交流会開催要領 8-2-2 ・同窓会代表者会議次第 8-2-3 ・学生自治会との懇談会資料 8-2-4 ・応用生物科学部評価体制 8-2-5 ・将来構想検討WG 答申書（4-1-4と同一） ・教育改革に関する依頼書 8-2-6 ・教育改革一次説明パンチ絵（暫定版） 8-2-7	
--	--	---	--

平成29年度・応用生物科学部・研究科における教育改革（基準4、5、6、8関係分）

基準4 学生の受入

入学試験委員会／課程・学科

- ◎ 特別選抜入試チェックリスト・実施マニュアルの見直し・改訂
→ミスの防止、安定的な実施、公平・公正性の担保
- ◎ 平成30年度入学者200名／定員190名（定員充足率105.3%）

第三者教育評価委員会

- ◎ 課程・学科・研究科
アドミッションポリシーと受け入れ方法の検証
→適正

基準6 学習成果

- ◎ 修業年限内卒業（修了）率：96%（98%）
- ◎ 獣医師国家試験合格率：100%（H29現役）

自己点検評価委員会

- ◎ 学生による授業評価の学部内公表（H22～）
→平均4.00（H29前期）、4.10（H29後期）
→学習効果の高さ保持
- ◎ アンケート調査
卒業時：満足度90%（学部）、81%（研究科）

室長：学部長
室員：副学部長、事務長

教育 改善室

応用生物科学部
シンポジウム（H30.2.23）
「社会から期待され、
社会に貢献する学部を目指して」

- ◎ 学部・研究科内：議論、情報共有
- ◎ 学部外に公開：議論深化、外部評価

基準5 教育内容及び方法

初年次教育WG →自学自習態度の寛容（単位の実質化）

- ◎ 初年次セミナーの組織的实施→検証→H30改善案の策定
* 全学活性化経費報告会（H30.2.22）で紹介

大学院委員会

- ◎ 新研究科「自然科学技術研究科」設置計画
→実践的高度職業人教育＝デザイン教育
→実施→検証（応用生物科学部シンポジウムで公表）

- ◎ シラバスの自己点検（内容・成績評価）
→シラバス通り99%→1名：課題あり：次年度改善対応
- ◎ アンケート調査、意見聴取
在学生、卒業・修了生、企業、官庁、同窓会、後援会

基準8 教育の内部保証システム

第三者教育評価委員会

- ◎ 応用生命科学課程・生産環境科学課程（評価 H28）
→将来構想WGでの改善策の検討（H29）→答申（12月）
- ◎ 共同獣医学科（H29）→客観的評価→答申（3月）